

## 令和元年 第1回 iRIC 研究会

場所：北海道河川財団 第一会議室

日時：2019年5月13日（月） 15:00～17:20

参加者（敬称略）

北海道大学：清水

京都大学：竹林

富山県立大学：手計

みずほ情報総研：井上

松木設計事務所：松木

北開水工コンサルタント：三宅

北海道水工コンサルタント：藤田

開発工営：濱木，清家

ドーコン：山崎，舂屋

日本工営中央研究所：小野寺，金

日本工営札幌支店：浜本，坂本，与賀田

三井共同建設コンサルタント：中村，近者

水工技研：魚波

自然共生研究センター：大槻，林田

寒地土木研究所：前田，大石，川村，井上，岩崎，伊波

---

## 2. 講習会の活動報告・今後の予定

- ・ 講習会開催報告の中に、共生 C が開催した岐阜県での講習会も追加下さい。  
(関連 URL：[https://www.pwri.go.jp/team/kyousei/jpn/events/m5\\_h30\\_04.htm](https://www.pwri.go.jp/team/kyousei/jpn/events/m5_h30_04.htm))
- ・ 新潟講習会は 2019 年 9 月～11 月に開催を検討
- ・ ボリビア講習会での開催を検討中
- ・ 徳島河川事務所，淀川河川事務所との講習会を検討中
- ・ タイ講習会の依頼あり
  - IAHR-APD2020@札幌にタイ側メンバーが参加予定，APD が終了してから iRIC 講習会の開催を検討中
- ・ コロンビアから iRIC 講習会開催の依頼あり
  - 担当者と面識が無く，予算の都合もつかないので断る方針（竹林先生から連絡）

### 3.GUI 開発状況報告

- ・ 新機能：参考情報のフォルダをプリプロ内に追加

### 4.ソルバー開発について

#### 4-1.分布型流出モデル

- ・ これからの運用を考えたとき、RRI の開発担当者が iRIC メンバー内にいた方が良い。
  - ICHARM 中村氏に担当を依頼、次の iRIC 研究会までに検討し返答予定.
- ・ RRI を iRIC で作動させるための機能を、今年度優先的に開発する予定. GUI 開発について意見がある場合は、旭までメールをして欲しい.

#### 4-2.浸透流モデル・3D ハザードマップなど

- ・ 浸透流モデルに関して
  - 蒸発散も併せて考慮する必要がある.
  - 農業用地下水路網なども将来的に考慮した方が良い.
- ・ 3D ハザードマップの表示に関して
  - 表示スピードがネットワーク環境に依存するため、3D ハザードマップと通常の Google Earth への画像貼り付けを使い分ける必要がある.

#### 4.3.密度流・流木モデルなど

- ・ 密度流、塩水遡上計算などの iRIC への搭載
  - 関心のある方は北大清水先生まで.

#### 4-4.地形編集機能

- ・ 共生 C において、iRIC GUI 上で横断面地形を編集する機能 (RiTER Xsec) や関連機能を拡充した. 2019 年も引き続き機能拡充を行う.
- ・ VR 技術との連携についても検討している. 現況では地形の情報はラスターデータなので iRIC とデータのやりとりがスムーズでないことなどが課題である.

#### 4-5.ソルバー開発全体を通じて

- ・ ソースコード貸与、共同研究により得られた成果について
  - コードの貸与を通じてモデルに組み込む流れがあってもよい.
  - モデルの組み込みまで行かずとも、計算結果の例を提供してもらうなどすると適用例などの紹介に役立つ,
  - 貸与して終わるのではなく、共同研究的な枠組みで実施することで、よりコードの貸与も容易になりかつ成果にもなると思われる.

- 他人が開発したコードの組み込みと再貸与の是非に関しては今後検討が必要.

#### **5.ウェブサイトの開発状況報告**

- ・ 英語サイトでログインできない
  - 至急対応する (Version up によって生じた問題. 対応方法を検討中)

#### **6.DIAS 等との連携状況報告**

- ・ 降雨データの欠測と降雨無しを区別できるのか
  - 区別は出来ないなのでデータを見て妥当性を判断する必要あり.
  - 欠測データの補完は難しい問題. 気象関連の技術の発展を待たざるを得ないので.